

ULT通信

今年度最後のULT通信です。3月が近づいてきました。泣いても笑っても、区切りの季節です。春休み中もULTは開館しているので、開館カレンダーをチェックして、ぜひ利用してくださいね。

2017.2.20号/vol.69 発行/ULT 図書館司書

2016 年間ベストセラー特集

ULTで読める

(日版調べ 集計期間:2015.11.27~2016.11.25)

総合部門 1位

2016年に
1番売れた本



『天才』
石原慎太郎
幻冬舎

総合 3位

『ハリー・ポッターと呪いの子』
J.K.ローリングほか 静山社



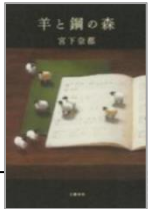
総合 4位

『君の臓腑を食べたい』
住野よる 双葉社



総合 7位

『羊と鋼の森』
宮下奈都 文藝春秋



総合 8位

『コンビニ人間』
村田沙耶香 文藝春秋



総合 12位

『火花』
又吉直樹 文藝春秋



文庫 9位

『怒り 上・下』
吉田修一 中央公論新社

文庫部門 1位

映画ともども
大ヒット



『君の名は。』
新海誠
KADOKAWA

新書ノンフィクション部門

3位

『京都ざらい』
井上章一
朝日新聞出版



新書フィクション部門 7位

『陽気なギャングは三つ数えろ』
伊坂幸太郎 祥伝社



ベストセラーの作品を見てみると、有名作家、文学賞受賞作、映画化作品など、出版業界のヒットの傾向がうかがえますね。面白さは自分の目で確かめてください。

ULT NEWS

●浦学美術大賞展 アートコース選抜作品展開催中!

ULT 館内にて浦学美術大賞展が開催中です。1階エントランスから5階の浦学ラウンジまで、いたるところにアートコースの生徒の作品が展示されています。作品を眺めていると、しだいにこちらの感性も刺激されてくるような気が…。展示期間は2/28までとなりますので、未見の方はお早めに!



新着案内

1月の新着は100点です。一部抜粋で紹介します。



タイトル	著者	出版社	請求記号
都会のトム&ソーヤ 14(上) 夢幻	はやみねかおる	講談社	913.6-ハヤ-16
いまさら翼といわれても	米澤穂信	KADOKAWA	913.6-ヨネ-6
クマのプーさん 新版	A.A.ミルン	岩波書店	933.7-Mi
トムは真夜中の庭で 新版	フィリパ・ピアス	岩波書店	933.7-Pe
ワンダー	R・J・バラシオ	ほるぷ出版	939.37-Pa

タイトル	著者	出版社	請求記号
フィルターパブル インターネットが隠していること (ハヤカワ文庫)	イライ・バリサー	早川書房	007.3-Pa
オリーブの丘へ続くシリアの小道で ふるさとを失った難民たちの日々	小松由佳	河出書房新社	302.27-コマ
ビーカーくんとそのなかまたち この形にはワケがある!	うえたに夫婦	誠文堂新光社	407-ウエ
チューブ生姜 適量ではなくて1cmがいい人の理系の料理	五藤隆介	秀和システム	596-ゴト
パラスポーツルールブック パラリンピックを楽しもう	陶山哲夫	清水書院	780.69-スヤ
ちくま評論文の読み方 高校生のための現代文ガイダンス	五味淵典嗣ほか	筑摩書房	817.5-コミ



タイトル	著者	出版社	請求記号
この世界の片隅に 上	こうの史代	双葉社	726.1-コウ-1
この世界の片隅に 中	こうの史代	双葉社	726.1-コウ-2
この世界の片隅に 下	こうの史代	双葉社	726.1-コウ-3
藪の中; 羅生門 コミック版	芥川龍之介	ホーム社	913.6-アク
舞姫 コミック版	森鷗外	ホーム社	913.6-モリ

コラムdeリレー。



69回は笹木が担当です。お題は「アマゾンで生活する人たちに日本を紹介する機会があったらぜひ渡したい本」。…長い。そしてとても限定的(笑)。

パツと思いついたのは『大きな音が聞こえるか』という小説です。淡々と無気力に過ごしている高校生男子〈泳〉。裕福な家庭環境、大学までエスカレーター式の学校、まあまあ気の合う友だち…。ぬるま湯のような生活で、夢や目標もとくにない。贅沢な考えだとわかっていても、(もっと不幸だったらよかったのに…)と思ってしまうこともある。

そんな泳にも趣味があります。それはサーフィン。ある日「終わらない波がある」と耳にした泳は、その波に乗ってみたいと思うようになります。調べるうちに、アマゾン川で起こる「ポロロッカ」という現象に行き当たります。潮の満ち引きの関係で海の水が川に逆流し、何百キロもさかのぼることもあるそう。ポロロッカに乗り続ければ、いつまでも波に乗ってられる…! やりたいことを見つけた泳は、その実現に向けて、少しずつ、しかし確実に動き出します。

地球の裏側からアマゾンに憧れている少年って面白いし、日本のふつうの高校生像がわかっていいかなとこの本を思いついたけれど、いろいろなテーマを含む物語でもあります。泳が変化するにつれて、表面的に付き合ってきた友だちも、幻滅させられていた両親も、違う顔を見せてくる。ブラジルのホームステイ先は日系移民の家族で、泳と同じ年の少女は「“ニホンダンジ”には“ブシドースピリット”がある」と信じて古風な日本人像に憧れている一方、ブラジル人らしく情熱的にアプローチしてきます。アマゾン川で乗り込んだ船のコックはイタリア系。イタリア系なのに料理下手で、大人なのに文字の読み書きができない…。身近な人も外国の人も、先入観や思い込みの向こうに、知らなかった面や想像以上の姿を現します。体と一緒に心も動く、良質な旅物語です。

次回のお題は「旅の本」にします。これまで出ていなかったのが意外!